

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000246		
法人名	社会福祉法人 池田さつき会		
事業所名	グループホームポプラ豊中南		
所在地	大阪府豊中市大島町1丁目3番5号 2階 すみれユニット		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生活者様が営む普通の生活」を心掛け運営を行っています。
 その方の「今まで」を良く理解し、その方がどの様な生活を送って来られたのかを職員が理解し、生活者様がこれからも少しでも今までの生活に近い生活が維持出来る様に支援させて頂く事が「その方にとつての普通の生活」と考える。
 その中で、今までとは、違う環境での生活が始まるので、その環境に慣れ親しんで頂く為にも、地域の方々との馴染みの関係に慣れる様に生活者様と共に歩んで行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の(社)池田さつき会は、平成16年に地域の高齢者を身体介護だけでなく、明るく、楽しく過ごせるための自立支援を目指す心のサポート役として設立した。池田市、豊中市一円に、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアプランセンター、グループホーム、訪問介護ステーション、等々11の事業所を運営している。当事業所はそれらの事業所の一つで平成22年9月に設立した。「グループホームポプラ豊中南」では、日々利用者のあたり前の生活を支えることを基本としている。利用者が出来ることは、出来るだけ自分でして頂くのであるとし、利用者が厨房に立って配膳をしたり、調理を手伝ったりしている姿が見られた。常ににこにこ笑顔で仕事を探しながら行っている、極く普通の生活風景である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本としたグループホーム目標を設定し、職員室内に掲示して常に職員が確認できるよう努めている。	利用者自らが普通の生活ができるよう支援する、という法人の理念に事業所の目標を加えて、スタッフルーム等目につきやすい処に掲示し、ユニット会議で確認をしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の活動に参加したり、近隣保育所へ行ったり園児に来ていただくなどの交流を行っている。	自治会に加入して地域の行事に参加したり、散歩や買い物等で近隣の方々と挨拶するなど、日常的に交流している。地域の高齢者を抱える家族に介護相談や施設利用の相談にも乗っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業所、隣接事業所協力のもと毎月地域交流会を開き、地域の方へ介護予防運動や楽しみとしてのカラオケ等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様、地域の方々にお声かけし、参加して頂き、活動報告を行ったり、これからの取り組みについてお話を頂いている。	利用者家族、社会福祉協議会相談員、事業所職員等がメンバーとなって隔月に開催し事業所の活動や今後の計画などの報告を行っている。しかし、利用者や行政等の参加が少ない。	地域密着型サービスとしての役割を果たすために利用者、地域住民、行政等、幅広い参加を呼びかけ、事業所からの報告だけに止めず、話し合いを行いサービスの向上に努めて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業連絡会の参加や、ボランティアの事での相談等で連絡を取らせて頂いたり、月に一度相談員の方にも来訪して頂いている。	事業所連絡会のほか市役所担当窓口とは、書類提出時等、折に触れ事業所の実情やサービスの取り組みについて伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、当法人の研修に参加したり、外部研修に参加したスタッフが伝達を行い、スタッフ間で話し合う事で意識の向上、実践に努めている。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、内部研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。しかし、玄関および各フロアの入入口はロックされ自由に出入りが阻まれて	玄関や各フロア出入り口は、見守りの出来る可能な範囲で解錠して、少しでも利用者の自由な暮らしを支援することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修の参加により、虐待防止について学び、当施設における虐待行為の発生が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の呼びかけにて、NPO法人による「成年後見人」の研修があるため、その研修への参加を行い、知識の向上を図っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	じっくりと時間を掛けての説明を行い、その都度、質問等ないかの声かけをさして貰っている。その中で、納得して頂けた時に署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、日頃の面会時、家族への電話連絡の際に職員が家族様とコミュニケーションを密に取ることで意見を頂いている。頂いた意見はただちにスタッフ間で共有し対応している。	利用者や家族等とは、日頃の会話や様子の中から、食事に関すること、レクリエーション、また、ケアプランに関すること等意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議や、日々の申し送り、朝礼等の実施により職員から様々な意見提示してもらい、生活者を主体とした介護の実践に取り組んでいる。	月に1度フロアミーティングが持たれ、業務内容に関すること、シフトに関する事など、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。そこで出た意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談の実施やリーダー、管理者が職員と気軽な話し合いを行い、日々の不安の解消やストレス緩和に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修への参加、他事業所への体験実習、グループ研究取り組みと発表等を行うほか、当施設独自での研修実施を行い、スタッフ個々の資質の向上に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会の参加により、他事業所との交流を図り、近隣施設と協力行い、イベントや研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人や家族の意見や要望を伺い、スタッフ間で情報共有し、不安な状況に寄り添い対応する事で、少しでも本人の不安の解消に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、入居前の見学の時点で、時間を掛け不安な事柄や要望をできる限り支援させて頂ける事の説明を行い、理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々のコミュニケーションを大切にし、その方の普通の生活における支援を行い、必要である支援については、随時追加検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設では、生活者様と共に、生活する事を推奨し必要以上の介護はせず、自身でやって頂ける事は、やって頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族連絡も密に取り、家族様にも協力して頂ける事は出来る範囲で協力して頂き、無理ない程度に本人と家族の関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様協力の元、実家へ数時間でも帰る。という事を実践しており、本人のこれまでを大切にしている。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、生家へ一時帰郷したり、お墓参りなど、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の中で、生活者様と一緒に何かを行ったり、生活者様同士の会話等にスタッフも入るなど、共に支え合える関係性作りを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、いつでも相談して頂ける関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から意見を聞き取り、必要とされている事の検討をカンファレンスや日々の業務の中で話し合い検討している。	利用者が毎日をどのように暮らしたいか、日々の関わりの中から、生活歴を参考にしながら聞き出し、かかりつけ医のことや食事制限に関する事など、出来る限り意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聞き取りや、知人、友人等の来訪時に聞き取りを行い、記録等に残し、ケアの変更に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ1人1人が生活者を観察し、会話し、寄り添い、共に生活するという意識を持ち実践する事で、生活者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に本人・家族様の意向を尊重し、主治医との連携により介護計画の作成、各個人を尊重したケアの実施に努めている。	介護計画の期間は一応長期計画を6ヶ月短期を3ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはそのつど臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務の中で職員同士が意見交換を行い、改善点を挙げる様にしている。また、記録を記載するだけでなく、口頭での話し合いを行い、ケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイ、ケアプランセンターと連携を取り、各部署での利点を活かした支援等に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回の地域交流会の実施、地域保育所と連絡を取り、運営推進会議を2ヶ月に一度行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診医との連絡は勿論の事ながら、必要に応じた通院が出来る様になっている。	協力医の往診が月2回あり、現在利用者全員受診しているが、いつでも希望の医療機関の診療が受けられるようになっている。内科以外の受診については、家族の協力を得ながら受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコールでの24時間対応実施。月二回の往診で利用者個々の状態を報告診て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は必ず、管理者かリーダーが立会い今後の方針等の情報交換させて頂いている。その他にも、入院先に足を運び、その都度、入院先から情報頂く様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化により、GHでの生活が難しいと判断した場合には、同法人、関連会社と連携を図り、特養や有料、サ高住を紹介させて頂く等の形を取らせて頂いている。	重度化した場合や終末期のあり方について、家族等と話し合いを行い、事業所として出来る事に関係者を交えて説明している。しかし、看取り介護指針の作成までには至っていない。	本人、家族等をはじめとする関係者等の意向がずれたまま重度化の時期を迎えることのないよう、看取り介護の指針および同意書の作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の普通救命講習の受講や、外部、内部研修の参加を随時行っている。又、消防署より、市民サポーター事業所の認定を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも、取り上げさせて頂き、地域との連携にも尽力を尽くし、避難訓練の実施も行っている。	年に2回、消火器の扱い方や避難訓練などを利用者や地域の方々と共に行っている。しかし、夜間を想定した避難訓練や、災害時に備えての備品や食料や飲料水などの準備は万全とはいえない。	災害時の避難については、安全な場所まで誘導した後の見守りを地域の方に依頼するなど、地域との連携体制が整うことを期待する。非常時に備えた備蓄備品の準備にも心掛けて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開設当初より、力を入れている部分でも有り、スタッフの入れ替わりは有るものの、新しいスタッフにも周知し、親しみの中にもある程度失礼の無い言葉掛けを行っている。	利用者一人ひとりの人格や誇りを大切にした介護がされている。食事介助や整容についてもさりげなく接している姿が見られた。また、個人情報もスタッフルームの書庫に施錠して保管するなど、管理は行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、生活者様からの要望と聞き取れるものに関して可能なものは日にちが経ってからでも、計画し実施するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合で生活して頂くのでは無く、生活者様のペースで生活して頂いている。職員が生活者様を巻き込む事はしないように徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の理美容やメイクボランティア様に来て頂き、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、準備や、洗い物等は職員と一緒にやるようにしている。又、食事に関しては、週に一度自施設でメニューを決め、買い出し、調理している。	食材会社の食材ではあるが、調理、盛り付け、食事、後片づけも利用者と共に家庭的な雰囲気の中で行われている。日曜日は利用者の希望を聞きながらメニューを決め、買い物、調理を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に飲み物の提供をすると共に、決められた時間意外にも、随時水分提供を行うと共に、職員も一緒に隣に座り、水分摂取する事で、より飲んで頂き易い環境作りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアと、週に一度歯科往診に来て頂き、各個人に合ったケアの指導等を受け、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を把握し、情報の共有に力を入れて失敗やおむつ使用数を減らし、排泄の自立へ向けて支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく一人ひとりをトイレ誘導するなどして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分補給や運動を心掛け便秘予防に努めており、それでも改善されない時は主治医や担当看護師と協力し生活者それぞれにあった下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活者の希望に沿って入浴頂いているが、希望されない方や入浴した事を忘れ訴えが出る事もある為、入浴表を掲示している。	入浴の曜日や時間は職員が一方向的に決めてしまわず、おおむね週に二、三回、午後の時間帯ではあるが、利用者のこれまでの生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活者それぞれにあった生活環境を理解したうえで創造し提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携や、インターネットを活用し薬の情報を理解し、スタッフ間での共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に近隣の保育所との交流をしたり、車での外出を計画、実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の保育所との交流をしたり、車での外出を計画、実行している。	利用者のその日の希望に添って、事業所周辺を散歩したり、保育園や近隣の公園へ出掛けたりしている。時には、外出に出掛けたり五月山公園や服部緑地へ出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金銭の所持はして頂いていないが、家族様の了承を得て、千円くらいの金銭は居室担当が預かっている方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフと共に年賀状を作成し、家族様へ送付したり、電話が掛かって来た時などは、お繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に、共用部の飾り付けを行ったり、日中は空気の入替えや、カーテンを開けて日の光を入れるようにしている。	明るい台所と繋がった食堂は、食事作りの音や匂いに満ち生活感が漂っている。壁には利用者と職員の共同作業で作った季節の飾り付けが施され、居心地よく過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に日中は、リビングにて過ごして頂く様にしているが、強制ではない為居室にて過ごして頂く事もある。ただ、リビングに出てきて頂いた時に独りにならない様に、スタッフが寄り添ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様と話し、ご自身が使い慣れた物を自施設でも使用して頂く様に、お話をしている。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自身の残存機能を活かしながら、生活して頂ける、環境作りに支援している。		